

No. 1224

「モスクワ」へ期待

— 日ソ対抗バレー（女子） —

日ソ対抗バレーボール、女子最終戦は6月26日、満員の東京体育館で行なわれました。2戦3戦に連敗した日本は全日本の先発メンバーに初めて加わった須藤が大活躍、第一セット、15対7と先行します。第二セットも全日本は須藤の4連続サーブミスなどでソ連を圧倒、続く第3セット、ようやく調子の上がったソ連が反撃、ジュースにもつれこみました。しかし、ソ連の追いあげもここまで、競り勝った全日本は3対0のストレートで最終戦を飾りました。山田監督ひきいる日本女子バレー、モスクワでの“金”が期待されます。

紙すきの里

— 岐阜・美濃 —

素朴で独特の味わいを持つ和紙“美濃紙”。岐阜県美濃市を流れる板取川のほとりが美濃紙のふるさとである。つゆ空の合い間をぬって民家の庭先にはすいた紙を貼りつけた干し板が何枚も並ぶ。いかにも紙すきの里らしい風情である。美濃紙の原料は楮（こうぞ）という木である。薄く、きれいに切り、清流につけ漂白する。流水槽の中で丁寧にチリやゴミを取りのぞいて行く。昔からこの仕事は女性のすることらしい。体を三つに折って根気よく作業が続けられる。天井に張った竹の弾力を巧みに利用してすき上げて行く。何百枚すいても同じ厚さのものを仕上げるには永年の経験を必要とする。伝統的な紙すきの技術者も年々少なくなり今では五人しかいない。地元の中学校には美濃紙を理解する目的でクラブ活動が行われている。放課後、手すき和紙の技術者を即席の先生に仕立て指導を受けている。昔からの紙の産地に住みながら、紙の作られる工程を知らないのは恥しいと真剣に取り組んでいる。今年の春の卒業証書は自分たちの手ですき上げた。1200年の伝統を持つ手すき和紙“美濃紙”地元の人々のひたむきな努力にささえられているのである。